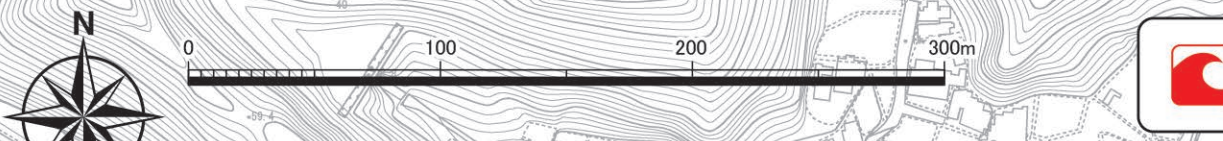


古座川町津波ハザードマップ

想定地震 南海トラフの巨大地震



津波到達時間とは、和歌山県の津波浸水想定の結果による、1mの水位変動が発生する最短の時間です。

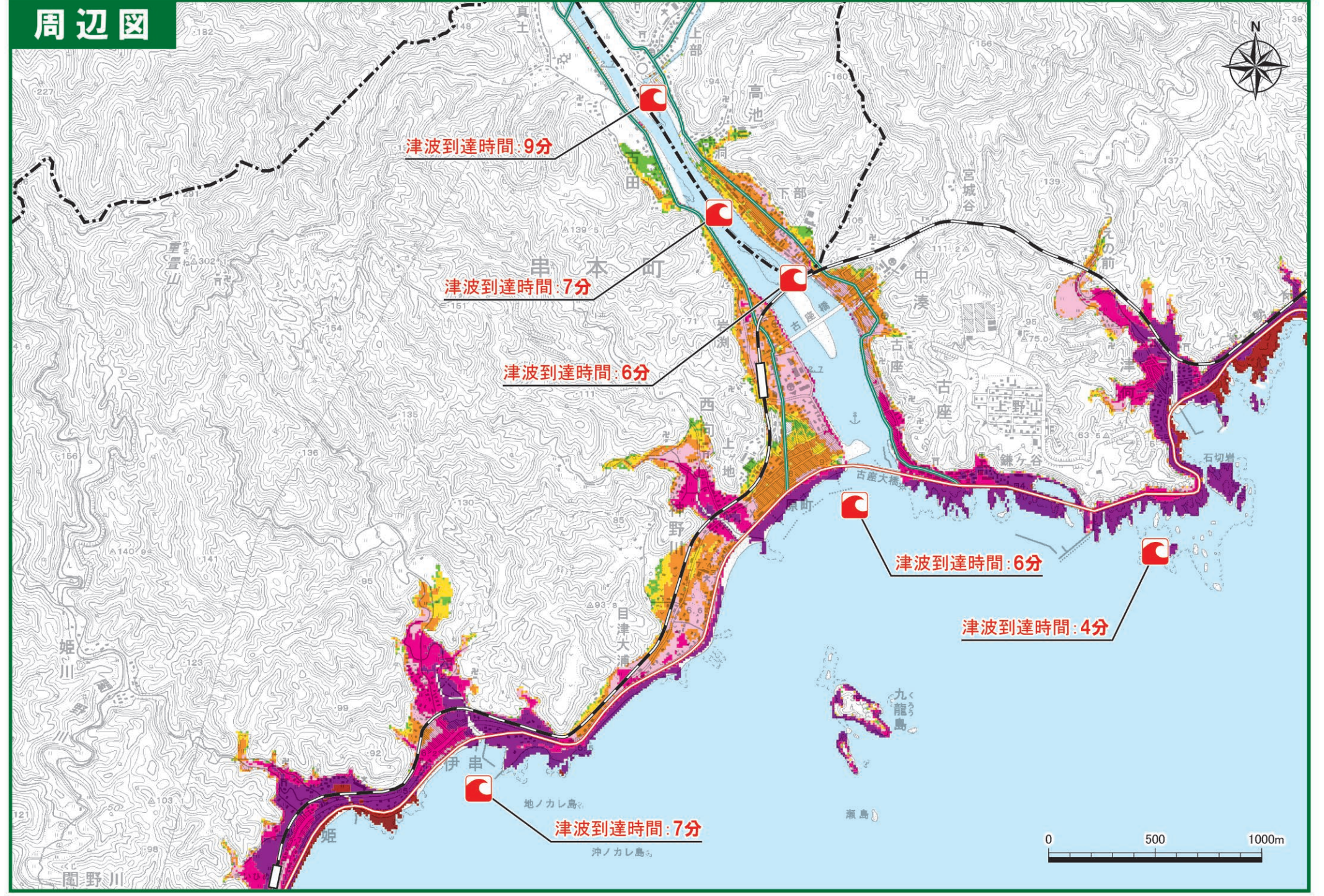
このマップについて

津波ハザードマップに示す津波浸水深は、和歌山県が平成25年に実施した津波シミュレーション結果によるものであり、計算条件は以下に示すとおりです。

H25和歌山県想定	南海トラフの巨大地震
地震規模	Mw9.1
潮位条件	朔望平均満潮位 T.P.+1.00m
コンクリート構造物(護岸・防波堤等)	●地震動により「破壊する」ものとする。
盛土構造物(堤防)	●地震動により、地震前の25%の高さとする。(75%沈下) ●その後、津波が越流し始めた時点で「破壊する」ものとする。
道路・鉄道	●地形データとして取り扱う。(破壊しない)
建築物	●建物の代わりに津波が通る時の摩擦(相度)を設定。
地盤変動量	●地盤の隆起は考慮しない。

津波到達時間: 13分

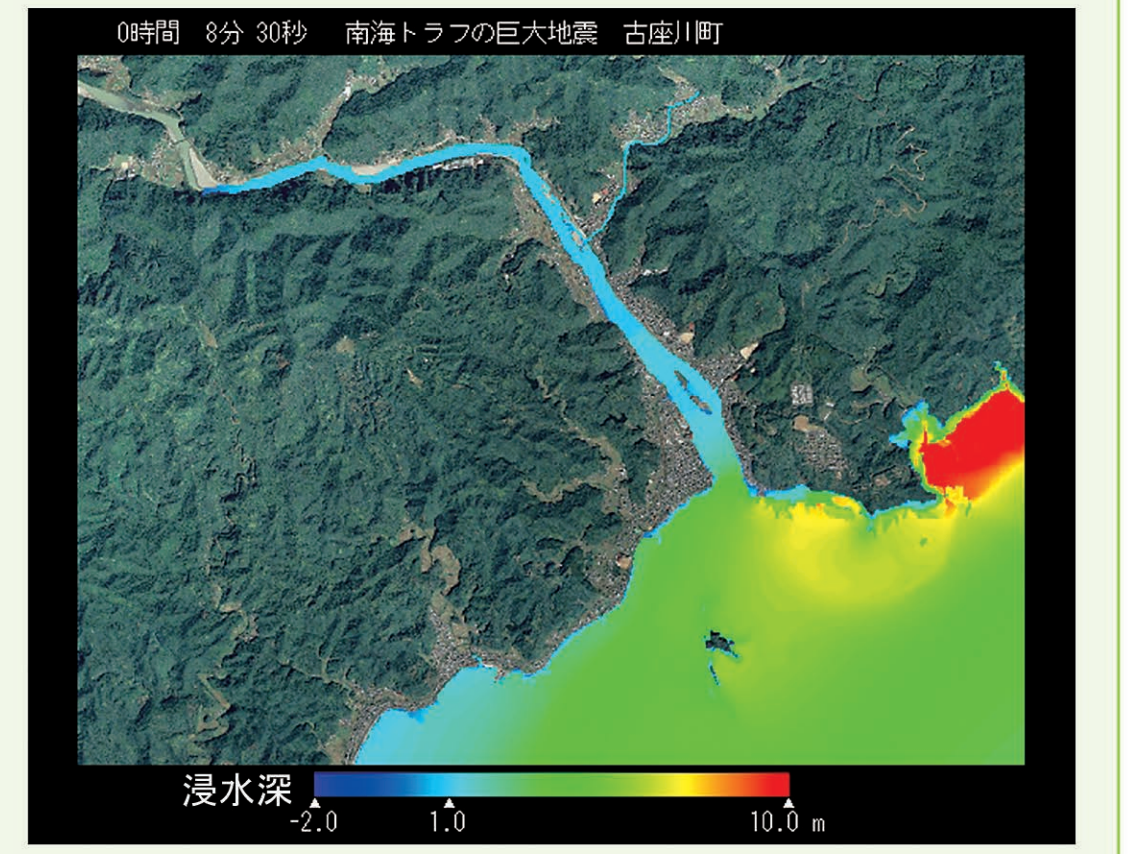
周辺図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情復、第895号)

和歌山県想定・南海トラフの巨大地震の津波動画

和歌山県想定による、南海トラフの巨大地震が起こった際に発生する津波の伝播状況シミュレーションです。地震発生から8分30秒後の津波の到達範囲と浸水深を示しています。



- ### 凡例
- 指定避難所
 - 避難場所
 - 公共施設
 - 避難経路

津波浸水深

0.01m 以上 ~ 0.3m 未満
0.3m 以上 ~ 1.0m 未満
1.0m 以上 ~ 2.0m 未満
2.0m 以上 ~ 3.0m 未満
3.0m 以上 ~ 5.0m 未満
5.0m 以上 ~ 10.0m 未満
10.0m 以上 ~ 20.0m 未満

津波避難の3原則

津波警報が解除されるまで絶対に戻らない!

津波警報が発令されたら、すぐに高台に避難してください。「避難3原則」は家族を守るために必要なことです。迷わず実行できるよう家族で話し合っておきましょう。

参照:群馬大学大学院 片田敏孝 教授著「人が死なない防災(集英社新書)」

- 1 想定にとられるな**
ハザードマップに掲載している津波の浸水域などの情報は、あくまでひとつの「想定」です。実際の地震や津波が想定通りになるとは限りません。
- 2 最善をつくせ**
実際にどこまで浸水するかといったことは、事前にはわかりません。その時に考えられる最善を尽くして、あらかじめ避難しましょう。
- 3 率先避難者たれ**
家族が離れたところにいる場合、迎えに行こうとすると避難が遅れてしまいます。自分ひとりでも避難しましょう。率先して避難することで、周囲の人の避難を促すことにつながります。

津波避難先の安全レベルについて

和歌山県では、避難場所などについて、各地区単位で緊急避難先レベル(1~3)を設定するなどの対策を行っています。まずは、レベル3をめざして逃げてください。レベル3に避難する時間がない時はレベル2へ逃げてください。浸水の危険がある地域でレベル2・3に避難する時間がない時はレベル1に逃げてください。



レベル1 ★	レベル2 ★★	レベル3 ★★★
浸水の危険性がある地域で、時間的に「レベル2・3」に避難する余裕がない場合の緊急避難先として指定。	浸水想定近接地域で、「レベル3」へ避難する余裕がない場合の緊急避難先として指定。	浸水の危険性がない地域に、より標高が高くより離れた安全な場所を指定。

※町では、この安全レベルをふまえ、町の地域性に合わせた判断基準を設定しています。

避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について家族で話し合っておきましょう。

- 状況によりすばやく避難**
避難情報などが発表されていなくても、自主的に避難しましょう。
- 家族には連絡メモを残そう**
外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくようにしましょう。
- 防災メモを持とう**
高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。
- 集団で助け合おう**
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
- 持ち出し品は最小限に**
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。
- 安全なルートで避難**
避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。